

5月月例労働経済報告のポイント

一般経済

- 景気は、厳しい状況にあるものの、このところ悪化のテンポが緩やかになっている。
 - ・ 輸出、生産は、下げ止まりつつある。
 - ・ 企業収益は、極めて大幅に減少している。設備投資は、減少している。
 - ・ 雇用情勢は、急速に悪化しており、厳しい状況にある。
 - ・ 個人消費は、緩やかに減少している。
-
- 先行きについては、当面、雇用情勢が悪化するなかで、厳しい状況が続くとみられるものの、対外経済環境における改善の動きや在庫調整圧力の低下、経済対策の効果が景気を下支えすることが期待される。一方、生産活動が極めて低い水準にあることなどから、雇用情勢の一層の悪化が懸念される。加えて、世界的な金融危機の影響や世界景気の下振れ懸念など、景気をさらに下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。

労働経済

- 労働経済面をみると、雇用情勢は、急速に悪化しており、厳しい状況にある。
- ・ 3月の完全失業率（季節調整値）は4.8%で、2ヶ月連続で前月差で上昇（0.4ポイント上昇）。
- ・ 労働力人口（原数値）は6,580万人で、2ヶ月ぶりに前年同月差で減少（24万人減）。
- ・ 就業者数（原数値）は6,245万人で、14ヶ月連続で前年同月差で減少（91万人減）。
- ・ 雇用者数（原数値）は5,425万人で、3ヶ月ぶりに前年同月差で減少（51万人減）。
- ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.52倍（前月差0.07ポイント低下）。
- ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、0.76倍（前月差0.01ポイント低下）。
- ・ 現金給与総額（原数値・確報）は273,163円で、前年同月比3.9%減。